

R2年農事メモ (秋作業特集号)

令和2年8月
白山石川営農推進協議会
石川県農業共済組合
松任市農業協同組合

ケイ酸に重点を置いた土づくりをしましょう!

1 土づくりによる安定した米づくり

(1) 土づくりの効果

- ① 稲わらや籾がらのすき込み → 土中有機物が増え地力が向上します!
 - ・ 分解を促進させるため、収穫後の気温が高いうちに速やかに耕起しましょう。
 - ・ 稲わらや籾がらに含まれる窒素分やけい酸は焼却すると稲体に利用されにくくなるので、焼かずに全量すき込みましょう。
- ② 土づくり肥料の施用 → 不足する養分を補給し、稲体強化や根の活力を向上します!
 - ・ 本JA管内はケイ酸含量が少ない圃場が多く、灌がい水に含まれるケイ酸含量も少ないため、ケイ酸資材の施用は必要不可欠です。
- ③ 作土深15cm以上を確保 → 根域が拡がり天候の影響を受けにくく、生育が安定します!
 - ・ トラクターの速度を落とし、ロータリーの回転数を遅くしましょう。
 - ・ 作土深が十分に確保できているか確認しながら、耕起を行いましょ。

(2) 各土づくり資材の特徴

銘柄・規格・成分	特徴・使い方
松任PKプラス (P:K:Si [*] =3:5:27)	・リン酸、加里、ケイ酸を含み、根の発達、分けつの促進、登熟の向上に役立ちます。 ・溶出率の非常に高いケイ酸を含んでいるため、施用量は60kg/10a程度と省力になります。
松任ケイサンプラス (Si=30)	・ケイ酸を30%含んだ資材で、稲体を強くすることで、登熟の向上に役立ちます。 ・溶出率の非常に高いケイ酸を含んでいるため、施用量は60kg/10a程度と省力になります。
ソイルパワー (N:P:K=2:2.3:3.2)	・牛糞、もみがらを主に使った堆肥で、圃場の地力増進に役立ちます。 ・土壌の保水力を高め、透水性、排水性を良くします。
NEW! ひやくまん馬力 (P:Si=2:26) その他各種要素	・水田で利用されやすい高溶出のケイ酸を使用し、その他、ホウ素、マンガン、鉄、銅、亜鉛といった微量元素を含み、ひやくまん穀など水田からの持ち出しの多い品種の作付け後に有効です。

※Si=ケイ酸

📢 ここにも注意を 《資材散布後の圃場管理》

堆肥や土づくり肥料の散布後は、速やかに耕起するとともに、ほ場内に水が溜まらないようにしましょう。

土づくりの効果は、数年継続することにより実感できます。毎年実施しましょう!

~管内の稲体にはケイ酸が不足しています~

●成熟期の稲体成分量 (管内6地点平均)

部位	乾物重 g/株	成分含有率(%)					
		窒素	リン酸	加里	ケイ酸	石灰	苦土
茎葉	39.3	0.6	0.2	1.9	8.0	0.5	0.2
穂	43.0	0.9	0.3	0.4	3.5	0.1	0.2

※ 収穫期の健全な水稻の茎葉のケイ酸含有率は11%以上



分析した全ての地点で健全なケイ酸含有率の基準値以下!!

●水稻作には毎年、約140kg/10aのケイ酸が必要ですが、灌がい水と稲わら還元だけでは、補えません。

➡ **ケイ酸の補給は必須です!!**

水田におけるケイ酸の収支 (富山農試)

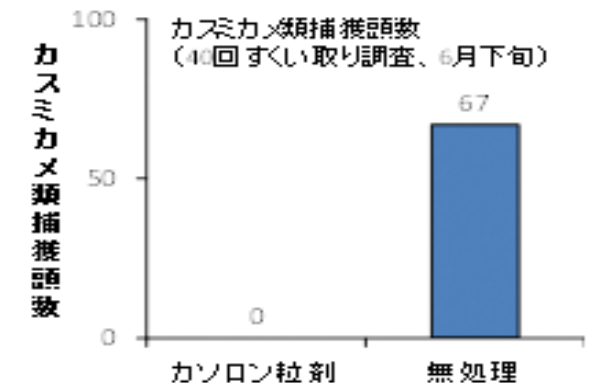


2 春季畦畔除草作業の軽減 (カメムシ発生地の早期管理)

農閑期の「カソロン粒剤6.7」散布で、忙しい春先の畦畔の除草作業を減らす事ができます。

薬剤名	使用時期	使用量 10a 当たり	本剤の 使用回数	使用方法
カソロン粒剤 6.7	11月下旬から年内積雪前	4~6kg	1回	全面土壌散布

※そ菜(かぼちゃ、うり類等)、花き(菊等)ほ場・その栽培予定地に隣接する場所では使用しない。



※越冬直後の飛翔性カメムシ類の繁殖場所が無くなるので、その後の発生量を大幅に減らすことができます。

「まずはワンチェック・ワンアクションで農作業安全」 2020 全国農作業安全確認運動

※農作業事故の大半はトラクターの転落・転倒、回転部への巻き込まれです。トラクターを使用する秋作業に注意しましょう。

